

所属・資格 史学科・教授
 申請者氏名 山本 孝文

研究課題		古墳時代の渡来系文物の実態に対する批判的検討
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究では、古墳時代の日本列島各地の古墳から出土するいわゆる渡来系文物とされる遺構・遺物の再調査を通じて来歴の再検討をすることを目的とした。対象は横穴式石室、製作技法や文様から韓半島に系譜をたどることができる金工品（装飾馬具・獅嚙文環頭大刀・圭頭大刀・唐草文帯金具・垂飾付耳飾など）、鉄製武器、土器である。これらの基礎資料を収集し、資料が保管されている現地や博物館・資料館を訪れ、実見観察、実測、写真撮影を行うことでデータベース化し、韓半島の資料と比較することで、その来歴と渡来文化の故地である韓半島との関係性を明らかにする。今年度の基礎作業として、主に長野県での資料収集を行い、韓半島との類例の比較を行った。また、文献史料に見られる渡来人関連記事を精査し、当地の集団と韓半島系文化とのつながりを歴史的背景から跡付ける作業を行う。加えて、数年来進行中である長野県内の古墳（横穴式石室）とそこから出土した金工品を中心とする渡来系文物の資料調査を行い、国内の他地域の資料との比較検討を行った。
	研究の結果	本研究の結果および研究経過として、以下の成果が挙げられる。 ①渡来系文物（帯金具、環頭大刀、馬具など）の金工品に見られる唐草文の形態・意匠的特徴を分類し、遺物の種類を超えた系譜論をまとめ、『考古学ジャーナル』『季刊考古学』に論考を公表した。特に『季刊考古学』167号では、「古墳時代日韓交渉の基礎資料」と題した特集を設け、古墳時代の日本列島と三国時代の韓半島の交渉の実態を解明する上で重要なテーマを設定して専門の研究者に執筆を依頼し、編集者としてとりまとめた。 ②『考古学ジャーナル』で渡来系文物に対する新視角を提示した上で、それに関連して単著『文房具の考古学』を出版した。 ③長野県内出土の金工品の情報を収集し、資料調査を行った。その韓半島からの視点をふまえた考察は『信濃』、『長野県考古学会誌』、日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』に投稿を予定している。
	研究の考察・反省	おおむね予定通りの作業を実施し、研究成果を公表することができたと考える。次年度以降に成果の刊行を予定しているものも含め、引き続き関連テーマの研究・公表を進める。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	【研究発表】 「日本における古墳の変遷と公州水村里古墳群」（忠南歴史文化研究院開院 20 周年記念公州水村里古墳群国際学術大会「公州水村里古墳群の新たな跳躍」）韓国・国立公州博物館 2024.4.25	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	「シナノにおける渡来文化」（シンポジウム「根塚遺跡、再び 東と西から奥信濃の弥生時代を問い直す」）長野・木島平村若者センター 2024.11.17 「風返稲荷山古墳の新資料と調査日誌の検討」（日本大学史学会 2024 年度第 5 回例会「茨城県風返稲荷山古墳の調査と研究」）東京・日本大学文理学部 2024.12.14 【研究成果物】 「古墳時代の終焉と渡来系文物の変化」『考古学ジャーナル』794 ニューサイエンス社 2024.4	
		※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。

	<p>「古墳時代並行期の日韓の社会と考古資料」『季刊考古学』167 雄山閣 2024.4</p> <p>「帯金具」『季刊考古学』167 雄山閣 2024.4</p> <p>「横穴式石室の導入」『季刊考古学』167 雄山閣 2024.4</p> <p>「東アジア世界からの視点」『考古学研究会 70 周年記念誌 考古学の輪郭』考古学研究会 2024.4</p> <p>『文房具の考古学 東アジアの文字文化史』吉川弘文館 2024.7</p> <p>「日本の横穴式石室墳と公州水村里古墳群の系譜と変遷」『忠清学と忠清文化』37 忠清南道歴史文化研究院 2024.12</p>
--	---